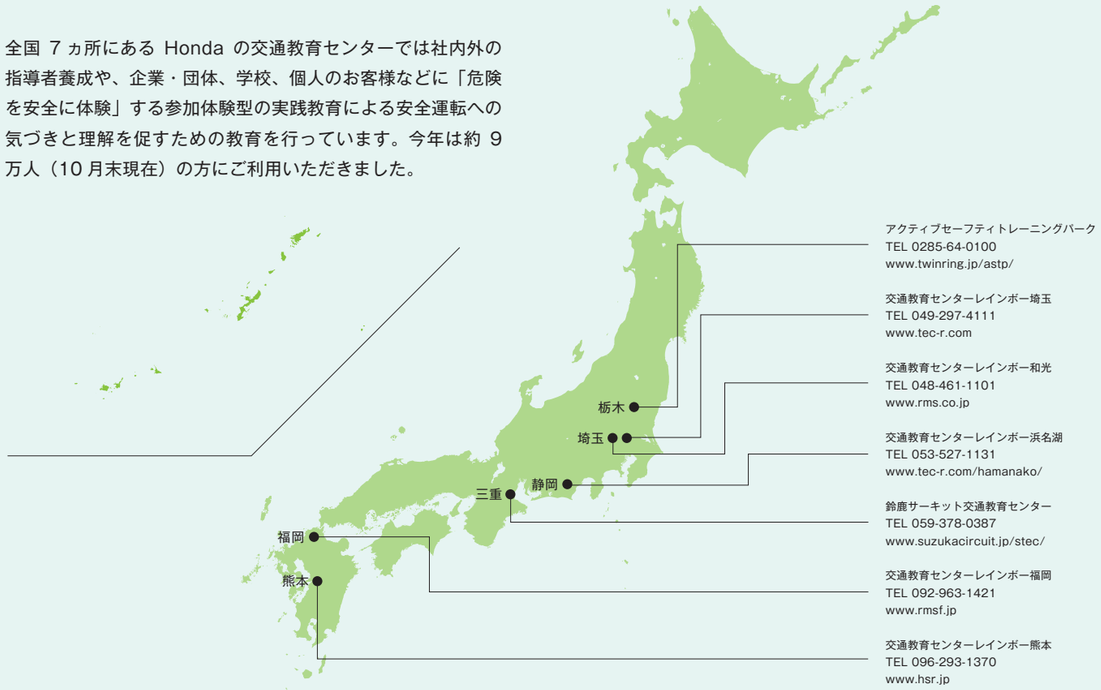
# 参加体験型の実践教育による企業・団体や個人への安全運転教育

全国 7 ヵ所にある Honda の交通教育センターでは社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様などに「危険を安全に体験」する参加体験型の実践教育による安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約 9 万人（10 月末現在）の方にご利用いただきました。




## 企業・団体の目的に合わせた安全運転研修

企業・団体向けには、業務中の事故防止を目的として、安全管理の実態に応じたプログラムを提供しています。例えば、交通教育センターレインボー埼玉と交通教育センターレインボー浜名湖では、コカ・コーライーストジャパン（株）（本社：東京都港区）の新入社員を対象に安全運転研修を開催しています。新入社員一人ひとりの運転の特徴をインストラクターがチェックし、レポートをコカ・コーライーストジャパン（株）に提出。同社ではそれを配属先の上司と情報共有するなど、職場でのフォローアップに活用しています。このほか、交通教育センターレインボー埼玉では（株）ドミノ・ピザ ジャパン（本社：東京都千代田区）の店舗責任者となる社員を対象にした安全運転研修を毎月開催。三輪スクーターなどを利用して配達業務を担当するスタッフの指導に必要な安全運転の技術とマインドを身につけてもらうための教育を行っています。

コカ・コーライーストジャパン（株）の安全運転研修

（株）ドミノ・ピザ ジャパンの安全運転研修



## 高齢ドライバーに自分の運転を見つめ直してもらうためのスクール

実車走行ではインストラクターが助手席に同乗し、気になった場面をチェック

走行の様子をカメラで撮影

記録された走行の映像を使った振返り

アクティブセーフティトレーニングパークでは、栃木県内の高齢ドライバーを対象に「Honda 健康ドライブスクール（以下、スクール）」を定期的に開催。自分の運転の変化に気づいてもらうことで、交通事故に遭わないようにすることをめざしています。スクールで使用される安全運転教育プログラムは Honda が独自に開発したもので、「自分の運転行動を客観的に振り返る（自己観察法※）」「受講者自ら答えを見つけだす」ことが特徴です。受講者が実車で市街地コースを走行。その様子を車内外に設置したカメラで撮影し、速度や加減速の変化も記録します。その後、受講者が３名１組となり、記録された映像やデータをもとに各々の運転を振り返ります。スクールが始まった２００９年から２０１６年までに１０００名以上が受講。２０１７年からはトレーニング車両を含め、車載カメラやデータ記録装置を一新しました。

※自己観察法＝東北工業大学の太田博雄名誉教授らが（公財）国際交通安全学会などで研究成果を報告している手法。自分の運転をビデオで録画して観察し、「我が身振り見て、我が振り直す」手法。

## 中国にインストラクターを派遣し、大型二輪のお客様向けスクールの開催に協力

中国では大型二輪を利用するお客様が増えています。Honda は、こうしたお客様に安全意識を高めていただくためのスクールを中国の４都市で開催しています。アクティブセーフティトレーニングパークは今年、このスクールにインストラクターを派遣し、お客様の指導にあたるとともに、現地のスタッフにより効果的な開催・展開方法についてアドバイスしました。今後もインストラクターの派遣を継続し、講習内容などについても提案していく予定です。

アクティブセーフティトレーニングパークのインストラクターが中国のスクールで指導

## 世界各国で活躍するHondaのインストラクターの指導力と運転技術の向上をめざす

１９９７年から開催している「セーフティジャパンインストラクター競技大会」。18 回目となる今年は、日本を含む１０ヵ国から７３名の選手が出場しました。今年は内容を大きく変更し、二輪・四輪の実技競技種目の見直しに加え、指導力向上・均質化をめざし、新たにグループワークを取り入れました。全参加者が "追突事故" "出会い頭事故" についてディスカッションと発表を行い、各国の交通環境を理解しながら様々な意見を交換することで、インストラクター活動に役立てるヒントを持ち帰りました。

第 18 回セーフティジャパン
インストラクター競技大会